

「岡崎発」カタログギフト

岡田印刷 地元商品をそろえ準備中

岡崎市板屋町の印刷会社「岡田印刷」が、市内で作られた商品のみを扱うカタログギフト「地元おかぎのギフト」の発行を準備している。一般的な冊子型ではなく、一社につき一枚のポストカード。十二月の販売開始に向け、十一月頃から予約を受け付ける。

(土屋あいら)

同社は創業一九一七年の老舗。商品開発を担当する「おご当地カタログギフト販売をもしろ創造研究室」の岡田翔(長野県上田市)を紹介して来られたのは岡崎市の皆さんのおかげ。地元の印刷会社として恩返ししたい」と提案した。岡崎ビジネスサポートセンター(オカビズ、岡崎市

12月販売開始へ

を中心に合資会社「八丁味噌(カクキュー)の八丁味噌や、ダイフスーパーのフルーツサンドなど人気商品が並ぶ。

「かわりは、商品よりも手掛ける人たちにスポットを当てたカードの内容だ。表面にはかわった人たちと商品の写真を掲載。裏面は商品情報のほか、商品にまつわるエピソードなどが書かれ、人柄やものづくりへの思いを感じることができるといえる。岡田さんは「『モノ』に加えて『ヒト』を伝えたい、商品の背景にあるストーリーを買ってほしい」という思いがある」と話す。

現在、関係者の取材やカード製作を進めている。岡田さんと一緒に取り組む見城供子さん(四〇)は「実際に取材をして、私自身もタイプな岡崎を知ることができた。岡崎市民に贈っても、知らない内容ばかりだと思う。ギフトをきっかけに商品のリピーターがればいい」と期待する。

価格は四千九百五十円(予定)。市外にエリアを拡大したギフトや、二〇二三年放映のNHK大河ドラマ「どうする家康」に絞った家康ゆかりの商品を取り扱うギフトの開発も考えているという。



岡崎市内の生産品を取り扱う「地元おかぎのギフト」のポストカード＝岡崎市板屋町で